

クラリティーアイズの21



牡 2021年2月4日生 | 鹿毛 | 道営・佐々木国明厩舎 | サンバマウンテンファーム生産

一口価格：19,800円 ※地方募集馬は競走馬保険の加入はありません 募集口数：500口【競走馬出資金総額 990万円】



POINT

圧倒的なスピードを武器にマイルG1を2勝した父の産駒は、父譲りのスピードで芝ダート問わない活躍を見せています。本馬は胸前、臀部と付くべきところにしっかりとした筋肉をまっており、それでいて窮屈さを感じない好馬体に目を引かれます。歩かせてみても推進力のある力強い歩きで、大地をがっしり踏みしめる様子からは、地方の深いダートを苦しめないパワフルさが伝わってきます。ホッカイドウ競馬からスタートする競走生活の向かう先がどこになるのか、期待は膨らむばかりです。

治郎丸敬之の馬体診断

種牡馬として同期のミッキーアイルとモーリス、ドゥラメンテの産駒を並べてみると、それぞれに馬体の構造が異なることが一目瞭然でした。ミッキーアイル産駒は胸部が詰まって映るスプリンター体型、モーリスはマイラー体型、そしてドゥラメンテは手肢や胸部にも伸びがある中長距離型の体型。ミッキーアイルの産駒には、気性の激しさも伝わっていましたが、誰がどう考えても短距離のレースで活躍することは明らかでした。唯一、想定外であったのは、牝馬の産駒が走ったことです。こうした気性の激しさを伝える種牡馬の産駒は牝馬が繊細になりすぎて走らないことが多いのですが、ミッキーアイル産駒の牝馬は気の強さとして芝のスプリント戦での爆発力につながっているようです。もちろん、母の父ロックオブジブラルタル譲りのパワーが産駒に伝わり、非力になりがちな牝馬の弱点を補完しているという面も見逃せません。ただ牡馬が走らないということではなく、クラリティーアイズの21のようにパワフルな馬体に出た産駒は、ダートで活躍すると僕は考えています。胸部の長さはミッキーアイルではなく母父キングカメハメハ譲りですから、レースを重ねることに少しずつ力をつけ、古馬になってからダート中距離の重賞戦線を決めてくれる馬になるのではないのでしょうか。

※測尺・馬体重はHPで最新情報をご覧ください。